

哥西大學生報

第五百一十一號

昭和二十二年七月



關西大學生報發行局

關西大學教授 野村次夫 共著
 關西大學講師 原田鹿太郎

商行爲法

菊 判 上 製
 紙 數 二六〇頁
 定 價 貳圓貳拾錢
 送 料 拾四錢

◆ 新 刊 ◆

本書は、吾が商法典中商行爲編（保險法を除く）の規定に就て、現に關西大學の教壇にこれを講ずる兩著者が、學生の授業用の教科書乃至自修用の參考書として執筆せられたものであつて、複雑多岐な商行爲法の規定を、系統的且つ組織的に、いさ明快に解説せられることも重要な學說、判例の全部を引用し、しかもあくまで所論の簡明中正を期せられ、理論、應用兩方面に對する完全なる指針たらしめてゐる。尙、卷末には學生諸氏の一層研究の便宜をはかり商行爲法に關する類書、雜誌論文等の文献表を掲げ、以て完璧を期せられた。茲に敢て之を學生のみならず江湖篤學の士に推薦する所以である。

株 式 會 社

大 同 書 院

東 京 駿 河 臺 中 央 大 學 前
 振 替 東 京 一 八 二 一 三 八 番
 電 話 神 田 二 二 二 八 番

大 阪 區 北 區 梅 田 新 道
 替 大 阪 一 三 一 一 五
 電 話 北 區 一 一 五
 番 番 番 番 番 番

現代獨逸哲學の一考察

教授 大小島眞二

目次

現代獨逸哲學の一考察……………	大小島眞二 (一)
歴史派經濟學の精神的基礎……………	赤羽豊治郎 (五)
學鐙反古錄……………	越智 弘 (五)
學 内 報……………	(一〇)
夏期授業日程—夏期語學講習會—人事異動—感謝袋贈呈—全國私立大學聯合會—かくほう抄	
校 友……………	(二)
大阪支部—福岡支部—大田會—神戸市役所—關大俱樂部—尙文會—動靜、移動	
關大スポーツ……………	(五)
自動車—陸上競技—相撲—ホッケー—拳闘—籠球—野球—劍道—水上競技—庭球—弓道—米式蹴球—射擊—馬術—柔道—卓球—航空—ラグビー	
學 生……………	(七)
皇陵崇敬會—參院會—皇道宣傳會—基督敎青年會—東亞研究會—商業研究會—經三クラス會—辯論部—共濟部	
學報俳壇……………	(九)

リーベルトが The philosophical Review の今年一月號になせる現代獨逸哲學に就ての報告にも存在論、實存哲學、實在論への趨勢は尙その特質であると云つてゐる。これはリーベルトを俟つ迄もなく獨逸哲學に關心をもつ程のものにとりて周知の事柄であらう。

そしてかゝる傾向はハルトマン、特にハイデッガー、ヤスバースによりて代表されてゐるが、これをもつて直にハイデッガー、ヤスバースを現代獨逸哲學唯一の代表者なりとするより大なる誤りはないと嘗つてのハイデッガーの助手ブロックが云つてゐるのは同感である。然し乍らこの二人の哲學者は他の人々以上に哲學の本質並にその將來の使命を理解せんと試みた人達であつて、彼等はこの問題をニイチエとキエルケゴールの影響の許に取り上げその解明に於て更に一步前進したのである。私は本文に於て上述の事情の簡單なる素描をして見たいと思ふ。

かくしてハイデッガー、ヤスバースを語る前に是等に先行し、並行せる異なる哲學の諸派を瞥見する必要がある。過去三十年來獨逸のアカデミックな哲學に於ては論理的進歩、現象と問題の分析、思想史、哲學及個別科學の歴史に就ての研究に關して非常な高い標準に達した。かゝる標準の到達は大戦前の時期には迎へられたが、大戦の結果として、この哲學的學問的敎養は若き人達の間著しく減退した。特に一九二五年以來甚だしい。其間心理學と精神病理學の進歩は注目すべきで、これ等は哲學と密接な關係を有する。今これを擧げればフロイド、アドラー、ユング、クレチヌマー等の異常心理學、グロース、ステルンに及びビュローラー、コフカ等の兒童心理學、W・ケエラー、カフカ等の高等動物心理學、キエルケゴール、ニイチエ、デイルタイ、ブレンタノー更にヤスバース、クラークス、スプランガー等の精神科學的心理學は其れに屬する。

上述の哲學の衰退期に哲學史に關する研究の貢獻者はカッシーラー、ミツシユ、N・ハルトマン、スプランガー、ラインハルト、イエガー、ステンツェル、ハイムズエート、クロトーナー、シュマーレンバッツハ等の哲學者である。

先づ第一に挙げらるべき學派は新カント派のマルブルク學派であつて、本來
コーヘンの弟子であるカッシーラー、とN・ハルトマンがそれに屬する。カッシ
ーラーは科學及哲學の歴史に關する權威者で戰前出せる大部の著述がある。彼は
又、コーヘンの新カント主義の理念を發達せしめ、且哲學の機能的性質を明にし
更に進んで神話、言語及科學的知識に關する概念形式の分析研究をなした。ハル
トマンは新カント派から出發して、後に現象學特にシエラー、ガイガー及プ
エンダーによりて代表さる、より以上の實在論的傾向の影響の許に彼の見解を變
更した。彼は物質、生命、靈魂、精神の如き實在の異なる領域の存在論に關心を
持つ。それは諸科學に基づく問題を取扱ふと云ふ意味に於て、それ等問題の個々
の性格及その問題の非解決性に於てである。この哲學的問題の非解決性のこの確
信から彼の存在論の特種の性格が生ずる。

次により以上の重要性を有する哲學の學派はフッサールによつて基礎づけられ
た現象學派であつてプフェンダー、ガイガー、シエラー、ライナツハ、ハイデ
ッガーの如き人々はこれに屬すと考へられ、彼等は一定の現象の概念的意味を分
析し記述する點共通してゐる。これ等の意味は直觀に依つて直接に近づかれ、何
等先入となる哲學的見解なしに直かに覺らるべきであるとする。過去廿年單一
なる現象の研究に於ける明白性、透徹性、方法的訓練が重要視された事實は特にフ
ッサールの業績によりて刺戟された現象學諸派に負ふてゐる。

現象學派と並んでデイルタイを祖とする學派がある。ミツシユ、ノール、スプ
ランガー、グリエーテュイゼン、フライヤーは之に屬しデイルタイのなしたると
同じく、歴史の過程を通じて、精神の發展の研究に没頭してゐる。彼等は歴史に
於ける自傳の如き現象を分析した。藝術の様式はデイルタイによつて置かれた三
つの世界觀の類型に依存するとなし、又スプランガーによりて生の六つの類型が
考られたのは餘りにも有名な歴史的事實である。更に生命及世界に就てのブル

ジョアの見解の特異性、或は客觀精神の性質等である。これ等の學者は構造的分
析の嚴密さ、細密さに於ては現象學的研究に劣ると雖も、デイルタイ學派の業績
は歴史に於ける精神生活の眞實性の並びなく充分なる解釋に豊かになつてゐる。
更にこの學派の特性としてスプランガーやノールが社會生活に彼等の哲學上の概
念を適用せしめんと努力した事を挙げねばならぬ。デイルタイが哲學は社會生活
に於ける指導的教育的役割を演ずべきであるとなす原理を實行に遷して彼等は
戰後の時期に於ける有力なる教育者となつた。

これ等の學派に對立して二つの他の哲學的學派が出現したが、その根底に自然
科學を採用してゐる。ウエルトハイマー、W・ケエラー、コフカ、ゲルプ等は形
態説を形成して自然科學的分析の二方法は出來得る限り一現象をその要素に分析
する通常のやり方を避ける事であると主張してゐる。後者の方法は科學的討究に
對して眞の姿を失ふに至ると彼等は云ふ。特に全體は部分以上であるとする彼等
の原理が心理學で非常に効果あるものとなつた。第二の學派はシュリツク、カル
ナップ及ライヒェンバツハの科學的哲學のそれで、それは今日の殆ど凡ての他の
傾向に對立して象徴的論理學の方法によりて果さる科學的分析に又主として數字
的物理的知識の根底に研究を進めるべく哲學を限るのである。

以上の諸派を通觀するにその哲學的水準は未だヘーゲル哲學の崩潰後來つた全
面的危機を脱して、自律的學としての哲學の位置に到つたものとは勿論云へな
い。「哲學の本質と其の任務は何であるか」この疑問は常に眞の重要性をもつて
殘るのである。前期ヘーゲル哲學はこの疑問に集中し、ロツツエ、フェヒナー、
コーヘン、ヴェインデルバント、ドリーシユ更にフッサール、デイルタイ、ウエー
バーの問題はこの解決にあつたと云ひ得らる。然しながら此疑問への解答は凡て
の將來の哲學的研究に待つべきであるがヤスパース、ハイデッガーはこの問題の
解決に一歩進めたものと見られ、ここに彼等の現代哲學に於ける重大なる意義及

價值が存すると云へよう。

ヤスパース、ハイデッガー共に危機以前に達せる大なる哲學にその標準を置いた。ヤスパースはカントとヘーゲルに、ハイデッガーはバルメニデスからアリストテレスに至るギリシヤ哲學に。然し尙彼等の哲學研究は現代に深く根をおろしてゐる。ヤスパースは元來自然科學及醫學に於て教養を受け、その生涯の初めに於ては精神病學と心理學に關する著述をなしてゐる。後に彼はキエルケゴールに強く影響され又ある程度ウェーバーにも、ハイデッガーは元來カトリックの出でアウガステイヌス、アクイヌス、ドウンス・スコトウスの如き中世紀の哲學者の影響を受け、フツサルルによりて現象學的方法の教養を得た。同時に二人は共にキエルケゴールの哲學的概念のあるものを採用しつつ、彼ハイデッガーはドイツタイ、ベルグソンから重要な概念を受け入れ、後には多くニイチエから得たのである。彼等はヘーゲル以後獨逸哲學に失はれた哲學の内的態度及その任務に對する道を見出す事に於て他のアカデミックな哲學者以上に成功したと見られてゐる。それと同時に彼等はカントが残した批評的嚴密さ及根本原理への反省を維持するに努力を拂つた。

カール・ヤスパースの名著は一九三一年に出た「哲學」三卷であつて、それに於て彼は彼の哲學的見解を経験の總體の上に展開せんと努力してゐる。然して彼は哲學は科學とは違つて何等本質的進歩はあり得ないと確信し、各哲學者の困難なる仕事は彼等哲學者自身の経験の總體を新しい根本的な仕方で客觀化せねばならぬと主張する。ヤスパースのこの完全なる形式に於て現はされたる業績はニイチエ、キエルケゴール、又フツサルル、ドイツタイのそれ、更にハイデッガーのこれ迄の發表に對してコントラストをなす。第二卷 *Philosophische Weltorientierung* 哲學的世界定位にては、科學研究はその不完全性を意識せねばならない筈であること、及、哲學者は其の世界定位を以て世界に於ける現象に就ての彼自身

の智識が等しく不完全に止まることを承認する事に向けられ指摘せられてゐる。

第二卷の *Existenzhellung* 實存開明にては人間生活の行爲に即ち、變化する狀況及單に限られたる目的を有する行動の種々性をもつ日常存在に不満足の爲めに人間性の最も深い要求を満足せしめんと努力する即ち、キエルケゴールの意味に於ける *Existenz* 實存を實現する人間の行爲に、哲學研究の道が生じる。かくして *Existenz* の實現の第一の假定として、彼は實存と生命とのキエルケゴールの區別から出發して「自己自身」*Ich selbst* を擧げ、更に他のかかる假定として「實際」*Kommunikation* がある、これに加ふるに「歴史的構造」*Geschichtlichkeit* の假定の三者が *Existenz* 實存の實現或は開明の根定を形成する。これ等の現象の根本的分析は「自由としての自己存在」*Sichsein als Freiheit* の表題の許に *Existenz* 實存のより深い開示がなされる。第三卷 *Metaphysik* 形而上學は哲學研究の第三の方法である。今是に觸れる餘裕なきを遺憾とするが要するにその問題の中心は第二卷の實存開明にありと云へよう。

ヤスパースが哲學研究の三つの道を呈示してより充分なる、より純粹の哲學的要求を換起する事を試みてゐるに對して、マルティン、ハイデッガーは全く異なる仕方ではあるが同じ仕事を遂行せんとしてゐる。彼は然しヤスパースの如く心理學者でも方法論者でもなかつた。彼は哲學研究の方法には餘り多く關心を有してゐない。然し彼の前に當にあるものは哲學の眞のテーマとして看做さるものであつて、それはバルメニデからアリストテレス迄のギリシヤの哲學者を刺戟し、且つ引續き基督者や近代の哲學の課程を決定した一つの問題、即ち「存在」*Sein* の意味の研究である。

「存在と時間」*Sein und Zeit* はハイデッガーの名著であつて一九二七年に出版された、これに於て彼は「人間の存在」*Dasein*、特にその時間的歴史的性質に關して現象學的分析をなし *Sein* 存在の哲學的題目に對する新しき進路を開かんと

努力してゐる。この進路は彼にとりてカントの先驗哲學によりて、アウグスティヌスやキエケゴールの如き思想家の基督教的經驗に依りて、ヘルダーがもてる歴史の意識によりて、又デイルタイやニイチエが承認せるそれに依りて、フツサールの現象學的方法によりて可能ならしめられたと云はれる。而もそれは彼自身の思考力に、そして彼自身固有の概念的言語的仕方に基いてゐる。この思想の連續的風潮は他の近代獨逸哲學の何れに於ても見出され得ないものとなつた。

要するにハイデッガーは Sein 存在の問題を新しき仕方即ち、何が人間であるかと云ふ最初の疑問によつて着手してゐる、そして彼の分析はギリシヤ哲學によりても又其後ヘーゲルに至る存在論によつても充分深くは研究されなかつた人間の存在の本質的な姿に向けられてゐる。即ちその時間的歴史的性质、この人間的存在の性質は彼れにとりて特に重要さをもつのである。

以上詢に粗雑なる論理的一貫を缺ける説明であつたが、現代獨逸哲學に於てハイデッガー及ヤスパースの哲學が有する意義は如何なるものかに就て一つの考察を行つたつもりである。哲學の本質は何かとの根本的問題に對して「實存」即ち「人間の存在」の解釋にあるとの解答を與へ、哲學の將來の任務は、この「實存」を一層普遍的意味に於て解釋するにありと、その方向を示した點で、又その解釋の方法の深さと廣さに於て彼等の哲學こそ現代哲學の最高峰を示すものと云へよう。然しながら、その完成は永遠の明日の問題で、限りなくその完成に近づきながら又永久に到達し得ないものではなからうか、そしてそれこそ「實存」自身の永遠なる姿ではなからうか。

この稿は主としてウエルナー・ブロックに、又リーベルト及アスターの夫々の現代哲學に關する書に頁ふ所多きを附記する。

歌集『地下道と松原』

飯田正一

菊池庫郎さんの第二歌集『地下道と松原』が、國民文學叢書第二十六編として新に上梓された。當然出づべくして、ながいこと期待されてゐたものが、漸く實現を見るに至つたのは、嬉しきことである。收むるところ五五八首、昭和四年から昭和十一年までの作である。

菊池さんは、現在の歌壇では先輩の一人である。だからその人の歌について多少でも物を云はうとすれば勢ひ非禮に亘らざるを得ないかも知れない。しかし、さうした愚かさを敢へてするよりは、わたしは、もつとずい方法によることの賢さを知つてゐる。菊池さんについては、その第一歌集『上福島の家』に添へた窪田空穂氏の序文が、委曲を盡して述べてゐる。それを引いて菊池さんを語ることである。「菊池君は自身を知つてゐる人である。むしろ知り過ぎてゐる人である。自身を知ると多くの人は、強くなると共に弱くなる。そして實際的にならざるを得ない。——と空穂氏は云つて居る。自身を知るといふことは、容易いことのやうで實は容易いことではない。誰にも云へることであつて、しかも實はなかな／＼行はれ難いものである。が、菊池さんは歌の上でそれを立派に爲おほせてゐる。尊敬すべきことである。」

菊池さんは自身を知つてゐるから、ちつと一つの世界を守り續けてゐて、決してその埒外へ出ようとはしない。その代り、その世界の中では、實に自由に、潤達に、愉しく、面白く、時には横着とも見えるまで無碍に振舞つてゐる。わたしなど、それを限りなくうらやましく思ふ。——謂ふところの意味は、菊池さんが、一つの態度の上に妥協として根を据ゑ、その生活を押進め、深めてゐるといふことである。そして同時に、菊池さんの歌は、さうした生活のあらはれであるといふことである。歌は生活の表現である。が、それは題材とか對象とかを、間近なものに求めるといふことではない。歌のしらべの上に、生活そのものを直接に生かすことである。菊池さんの歌はそこの一分の罅隙もない。わたしなど、及び難い距離を感じて、たゞ歎ずるのみである。

子供等がとりて來し蟹氣にかけて面倒見は父われればかり
玄關に大き桶あり此にしも蟹を飼へりと思はれめや

子供たちこゝらもあるに出けらの蟹如何ぞと妻かへりみず
淀川に蟹を逃がしに行かずやと子供促して家出でにけり

菊池庫郎さんは、關西甲種商業學校教諭として既に二十年も本學の教職にある菊池金次郎氏その人である。



新刊紹介

『歴史派經濟學の精神的基礎』

赤羽豊治郎

Justus Reners, Die geistige Grundlagen der historischen Schule der Volkswirtschaftslehre. Berlin, 1935.

近頃のやうに、經濟學を従來の市場理論たる域から脱せしめ、更に大きな場面、特に國民的體系の下に再組織しよう、とする傾向の目立つのは洵に珍らしいことといわなければならぬ。併し、かゝる意圖が何等かの政治的所與に對應するため企てられたとすればもちろん、われらは是非の判斷を差控ふべきであるが、さうでない限り今後に於けるその發展を注視する必要があるのではないかと考へる。この傾向は未だわが國に於ては顯著に現はれてゐないやうであるが、獨逸・伊太利の如きナチス或はファッシストの國柄では決定的なものといへる。伊太利の場合は暫く論外としよう。

ナチス治下の獨逸經濟學界が左翼的乃至自由主義的傾向をもつ定期出版物を廢刊したのは既に數年前のことであるが、なほ「國民經濟學」の標題の下に説かれてゐる理論の大部分は市場理論である。然るに、最近に至つて漸く國民的色彩を濃厚に取入れたものが多くなつて來た。尤も見方によれば、レンツの「政治經濟學綱要」(一九二七年)の如きもこの傾向に屬するものといつて差支ないし、またデイルやシュパン並びにゴットルなどの方針はその代表的なものといへよう。併し、これらの著作と雖もその依つて立つ想源がなければ決して今日の如き結構をみいだし得ないに違ひない。現にレンツはリフイドリツヒ・リストに、シュパンはアダム・ミュラーに、またゴットルは明示してゐないがカール・クニースの強き影響の下に立つてゐるといへる。而もこれらの先蹤者はみな周知の如く、獨逸の舊歴史派經濟學者として、若しくはその前驅者としての榮譽を荷ふ人々であつて、事新らしく述べ立つるまでもなからう。本書の著者レエマアはかく現に支配的たらんとするこれら經濟學の理解は一應舊歴史派經濟學(以下歴史派といふ)の精神に立歸つて始めて成就し得られるとの見解をもつやうである。かくて氏の獨逸歴史派經濟學研究の意味が與へられるが、この書名の如く氏の努力は主として歴史派成立の思想的關聯に向けられ、必ずしもこの學派に共通する學說内容を詳細に傳へんとするのではない。

「精神的根據をもつといふは過去の時代に精神的に結すばれ、過去の世紀に淵源し、傳統を保持し且つこれを養育することである。精神的根據はかくして存在し、精神財がひと度採用されると、自己のものとして一九三〇年を境界線に劃して普通主義法律理論に依つて基礎づけられた聯盟主義が、種々の國際的大事件に直面して下降への一途を辿りつゝあり、一九三六年以後の國際情勢は一層その没落への拍車をかけたかに見ゆるのは確かに一面の眞理であろう。

一昨午獨乙の再軍備宣言、續く伊エ紛争、昨年に入つて我國のロンドン海軍軍縮會議よりの離脱は殆んど集合的平和機構より一支柱を除きたる觀があり、同二月米國の中立法の修正追加は戰爭に適法性と違法性の區別を強調する聯盟主義への大きな反抗となつた。三月成立した佛蘇相互援助條約其者は勿論聯盟機構内に於ける相互援助の國際的公示に過ぎないが、對獨不安が佛蘭西を其政治的意圖に指向せしめたとする見解も案外不當とは言ひ得ないであろう。然らば國家の集合に依る敵對目標を禁ずる聯盟の集合主義は樞軸となる信奉者佛蘭西に依つて破られ去つたとさへ見られてゐる。

之に先だつ獨乙のライン再武裝は、佛蘇相互援助條約がロカルノ精神に反するとの理由に依つて決行されたが、それは聯盟主義を通じて國際法への明白なる反抗であり、抗爭であつた。之と共に伊エ紛争が結果し

學 鏡 反 古 錄

越 智 弘

利用され加工し擴張されるのである。だが、われらは以前に考へられた思想を後繼者に於て、この歴史的意識と思想の下にそれらの個性の發展が行はれる限り、これを同じ方法で再びみるを得ない。それらは概して再認識せらるべき形態では固有の思想財を貰いてゐず新らしき理念に進んで行く。新思想がより大であり包括的であればあるほどその根據は廣く深い。(Ramm: S. 18)これが氏の著作を一貫する嚮導概念ともいふべきものであつて、如何にロツシヤア、ヒルデブランド及びクニースが前代の精神的遺産を受入れこれを發展せしめたかを、かゝる見地より扱つてゐる。こゝでの紹介は精細なるを期せず、たゞ荒筋を追ふにすぎないが先づ筆を獨逸に於けるスミス學派に始めなければならぬ。

二

スミスの著書は一七九四—八八年に亘る間に、ガルヴェーによつて獨譯され、主としてゲツチンゲルを中心として傳播された。その流布に盡したものにゲオルヒ・ザルトリウスとクリスチアン・ヤコブ・クラウスがある。著者はスミス派の動向を直接説かず、それとカメラリストの交渉を明かにしてゐる。この兩者は精神的訓練と經濟生活の説明態度に相異があるが、後者は經濟生活を國家經濟の見地から眺め、國家財産の増加を最高の任務とする。(S. 8)この場合の國家經濟は王侯のそれと同一視されてゐるし、その考察が専ら財政政策に傾くのも無理はない。併し、かゝる政策論が前面に推し出されてゐる傍ら、佛蘭西革命の思想的影響を受けて、個人の自由なる經濟行動を許す考へをもつ

てゐた。かれらによると個人は自由且つ何等の國家的干渉を受けず發展すべきであつて、このことは「カメラリストの努力が國民經濟の統一的觀念を拋棄し國民經濟に於ては經濟が自から形成する法則を閉陳すべく努めることにより、『この自然の法則を研究し、出来る限り忠實に叙述するのが主要傾向であつた。』(ロツツ)従つて、經濟學の任務は人間が利己心の理性ある原理によつて財貨の獲得をいかに進むかにある。また、ひとは國家の經濟に對する干渉はもろん否定しない、更に又、國家の高貴な任務は自由市民の自利行動を保護するか、或はかれらが入り込む錯誤を除去するか、にある限り關心をもつのである。」(S. 88)かく、かれらの所説は一般的經濟理論に面すると同時に經濟政策に向ふ。この状態こそ、今日の獨逸經濟學がその解決に苦惱しつゝあるところであるが、歴史派はカメラリストのかゝる經濟政策的側面を吸収すると共に、その理論的部分を拒否するに至つた。前者に即するはロツシヤア、後者に抗するはヒルデブランド、クニースの仕事である。(S. 64)

スミス派とカメラリストの間を行くはラウとヘルマンである。ラウは經濟理論に於ては抽象的であり、而も自利心の支配する經濟法則の定立を計るのみならず、公共心の重要なを認めてゐるし、財政學に於ては後年のワグナアのためよき準備者となつた。また氏の理論と政策の分立は注目せられていゝ。特に前者を以て數學的方法による正確科學たるべきであるとみ、勢ひ歴史的方法と離れるに至つた。更に、古い獨逸經濟學に於て勝れた頭腦の持主といわれるヘルマンに就ても、ロツシヤアの經濟學史に從ひ、ラウの如く歴史

た伊太利に依るエチオピア併合は聯盟主義への最大の反抗に外ならない。

昨年に入つて近年來の國內的騷擾の爆發に依つて惹生された西班牙内亂は、國際法の分野に多くの問題を提供した、曰く、内政干渉、不干渉協定、交戰團體の承認、政府の承認等々、を繞つて政府軍、反政府軍を援助する國家群の對立は更にそれ等の集團の内部的結合をさへ強化し、過去に於ける分散主義を再現するに至つた。茲に世界大戰直前のそれと異つた地盤を方向に於て分散主義と集合主義の相剋が見らるゝのでありそれは同時に國際法最近の動向の一特色として見逃し得ない興味ある情勢である。

一

西班牙革命に對する佛蘭西政府の内政不干渉案の提議は、英佛兩國に於て武器及軍需品の輸出禁止を締約せしめ、それを歐洲列強の參加を要望せしむるに成功したが、此等の行爲が政府に於て決行されたりと雖も西班牙政府の同意なくして行はれ、或は反政府軍に對して行はれた場合は内政干渉となる事明白なるにも不拘そは慣習國際法の一原則に過ぎなく國民に依つて決行されたかゝる行爲は何等の國際法上の制裁をも受けないのであり、國際法規の大きな缺陷が暴露さるゝに至つた。

傳へらるゝ英佛協約は右述せる如く極めて簡單であり、内容はもとより明かでないが、若しそが政府による武器及軍需品の輸出禁止なりとするも、或意味に於て現行國際法の内容を條約に依つて成文化せるもので

派に貢献するところ少なじとみてゐる。かくの如く、獨逸に於ける正統派及びカメラリストは經濟理論に關する限り歴史派の成立に關與せず、反つて後來者の反動的傾向の出現を期待さるかのやうであつた。この役目を果したものはロツシヤ以下歴史派の學者であるが、それらの歴史的若くは國民的立場を造出するに至つた直接の精神的基礎が求められなければならぬ。これこそ本書の眼目となるべきもので、ロマンテイクの運動がそれに當てられてゐる。

著者はロマンテイクの本質に就てのシユミットの説に同せず、シユパン・バクサ等の見解を賞揚しその多義にして把握の困難なるを歎じてゐる。(67)その歴史派經濟學の成立に預つて力あるは、歴史と國家に關する考察である。前者は啓蒙期の合理的思想の反動として非合理性、人間が説明し得ざる、すなはちラチオのみを以て把握し得ない、因果觀によつて基礎づけ得ない一般的動力に從屬する」ことを主張し、更に歴史は熱心に追求せらるべき單なる所與であつて、これは人間の意識的・合理的行動の援用によつて一義的に決定されず、その本質はむしろ非合理的殘部に於てみられると解する。(68)後者であるその國家觀はかうである。個人間の精神的結合は國家を通じてのみ正しい表現を與へられるとみるし、カントを克服したフイヒテの高調するところとなつてゐる。この二つの考へが合して、ロマンテイクのいわゆる國民的國家の形成といふ見地を生み、改めて歴史を見直さんとするに至つた、といへよう。かゝる立場に於て國家並に社會經濟を論じたのが、アダム・ミュラアであり、歴史學派に及ぼしたかれの影響大なるは次に説く通りであ

る。尤も、本書の著者はミュラア以前にこの學派の成立に貢献せるものとしたユスチス・メエザアをあげてゐる。これは洵に適切な見方と思ふ。ロツシヤはその歴史的方法をかれから學んだことであるが、メエザアの見解は例へば農奴の成立に關する考察によつて理解し得られる。この制度はルソーの主張する如く強者の自由民の抑壓によつて成立したものではなく、或はプーフエンドルフの考ふるやうに、自由をナイーブに自由意思的に放棄することから始まつたとみない反つて、かれの歴史研究は中世の身分組織こそ、自由民を拘束のうちに保護する制度であると指摘した。國家に就てもエンチロペディストのそれを排斥し、身分的に構成された國家を眞に歴史的發展の結果としてゐる。かく、メエザアの事物を觀察し、國家政治の要求をその歴史的證明のうち説明しようとする方法はまた經濟生活の出來事を考察し、經濟の法則をその史的制約に於て叙述せんとするロツシヤのそれでもあつた。(67)

さて、ミュラアとリストであるが、前者の歴史派に對する關係は第一に國民的國家思想の觀察から始まるといつてよい。(68)國家はかれの場合では人間の精神的・身體的成育の窮局の完成を國家に於て保持する、とみるのであつて、「國家はあらゆる身體的並に精神的欲望の結合であり、無限に活動し且つ生命ある全體である。」而も、かゝる抽象的の觀念もその具體的構造の段になると、プラトンの考へたやうな身分によつて秩序された組織である。經濟はかゝる國家の見地から考察され、有機體たる國家の肢體的地位を確保する。國民經濟を一個の有機體とみる立場からはそ

あり、更に之が個人の行爲に適用さるゝものであれば現行國際法規の未確定の分野に著しき法規的發展と彌開を招來するであらう。かくて本協約が其進歩的形態に於て歐洲に確立され、國際社會法として劃大妥當すとすれば、内政干渉に關する現行國際法規の缺陷は是正されること極めて大なるのみならず、かゝる萌芽が英佛協約に見出さるゝものとすれば、西班牙革命は國際法の歴史的展開の一頁を飾る理である。

二

それ等の理論的鬭争は現在及近き將來の歐洲國際法學界の歸趨を朴するに足るものとして極めて興味深いものがあるが、それは同時に反面ナチズム國際法學の學界への理論的反抗の歴史でもある。

其國際法觀をナチスの世界觀に統一せんと企圖する獨乙國際法學者の一群は其立論の形態の相違こそあれ人種の觀念の尊重と權利平等の觀念に基き理論を或は學說を求めんとし、レアリズム的、プラグマテイヰムの傾向に陥つてゐるが、民族を中心とする國民主義と社會主義の綜合に依つて基礎づけられた近代獨乙に醸成されたナチスの國際法觀のレアリズムの傾向は聯盟主義を中心とする國際法學者の普遍的理想主義の法理論乃至は國際法優位の立場に於て展開された純粹法に理學の規範主義的法理論に對しても對蹠的地位に立つ至つた。

従つて彼等に於ては國際法は國家の利益を達する爲めに存在し(Herbert Kraus)國際法は約定法であり、命令法でないとして國家の生存に關するに於ては如何

の肢體は特定の、均衡を保つやう組織されなければならぬ。これは有機的論理の當然の歸結であるが、またかれの理論がこれを中心と動いてゐる事情はその中世主義の現はれともいへよう。リストになると、個人の幸福への要求が強く表はれてゐる。併しこれとてミユアラの嚴格なる有機體概念をより動的に、且つ實際生活に適用し得る見地からなされてゐ、社會を個人の集積に分解しようとするスミスの個別主義に墮するのではない。リストに於ては、一國民の經濟的發展を希望する近代が有力に働いてゐるのである。(S. 86, S. 88)次に、ミユアラは正統派が經濟の數量を認識目的とするを非難し、經濟は尤大なる財貨によつて成立たず、その原則は精神的のものであるとした。國民經濟は精神を缺けば死物であらう。こゝにマテリアリズムへの批評がある。その態度はリストに於ける方、遙かに痛烈である。兩者の物質主義と原子主義に對する論難に就てミユアラは理論的であり、リストは激情的である。更に、國民經濟を生命ある全體とみるミユアラにとつては、土地勞働及び物質的財貨の技術的共働のみを生産とみるのみでなく、社會を通じて個人が始めて可能となる精神力の貢獻を經濟的經過に最も意識あるものとした。リストはこれを承けてスミスの交換價値の理論を生産力のそれと補ふことになつた。正統派が精神的行動に經濟的生産力なしとみ、私經濟的見地のために、國民經濟的生産力一般の認識を拒否したのは、今やまつたく新しい狀況が一國民の國民經濟的生産力の特性の上に開かれることになつた。富の本質とその形成、國民財産の意味とそれに關聯した問題は全く新しき光りで見られるに至つた。かくて、歴史家に對するの道はこの點で新なものから踏み出されるのである。スミス派に對するミユアラの論難攻撃や、彼の基本的な理論認識がないならば、歴史學派は果して啓蒙

思想の抽象的・物質的立場をよく克服し得たであらうか。叙上の如き功績を残しながら、ミユアラの歴史派の形成に對し有する意味は普く認むるところとなつてゐない。「歴史的」であれといふ熱心の前に、ミユアラの理論的勞作は歴史派にとつて十分に意識されなかつた。だが、この二者の隔りを結び、歴史的契機に關するミユアラの理論を續ぎ、ロツシヤア、ヒルデブランド並びにクニスへの移行を完成したのは實にリストその人であつた。(S. 88)

著者は「歴史派内部に於けるリストの地位」なる章下で、文獻的にリストのかゝる中介的立場を明かにしない。寧ろリストに於ける問題としてその鋭き歴史觀と國民精神の自覺をあげてゐる。しかも、これらはいづれもかれの偉大な實踐を通じて、三人の歴史派の巨匠に相續せられたとみるのである。ロツシヤアは歴史的方法の効果をリストの實踐から學んだと告白してゐるし、ヒルデブランドはリストが若き亞米利加經濟の觀察によつて、國民經濟の發達に一個のベドイツングを認め始めて階段説を唱導したことに倣ひ、諸國民の經濟生活にみられる支配的の歴史發展法則に留意したのである。(S. 90)

リストはその書のうちで、特に國民の經濟的領域にもつ重要さを知らんとして、經濟學を國民と密接な結合に於て明かにし、その認識目的を全く一般的な國民的諸目標に向け、經濟生活の理解を特定の歴史的意識から説かんとする。(S. 91)リストの國民的思想はミユアラやシエリングに負ふところが多いが、なほゾーデンの國民構成員の生産力・原生産力・工業的生産力並に國民全體の生産力の如き概念が顧みられなければならない。著者のみるところでは、リストはこの人の著作から最もよき・價値多きものを抽出し、自己の體系に利用したとある。(S. 92)ゾーデンの自由的精神

なる國家も其健全を失はざる以上、其生存の存續を妨害すべき法律的原則を無視するに躊躇しないものとした。(同氏)(註一)同様な學説はエルンスト・ヴォルガスト(Ernst Volgar)に依つて贊同されオットー・ケルロイター(Otto Koellner)に於て採られ(註二)國際法は最も決定的なる程度に於て政治的法律であると迄主張されてゐる。乍併かゝる國際法理論は決してナチス學者の獨創ではなく、ヘーゲルの、イェリネツクの國家至上主義の哲學理論乃至は國家自己制限説の内包であり、且又ナチスの實力尊重の思想もヘーゲルに依る哲學論に立脚したエリッヒ・カウフマン(Erich Kaufmann)に其論據を借りたものに過ぎなく、究局に於ては政治理論を法律理論に混同して論ずるに至つてゐる。

(註一) Herbert Kraus, *Interess und zwischenstaatliche Ordnung*, Niemeyers Zeitschrift für Int. Recht, Bd. 49 (1934)

S. 30——

(註二) Otto Koellner, *Grundriss der Allgemeinen Staatslehre*, Juhngen, 1933.

S. 236—227.

かゝるナチズム國際法學者の主張は終に國際法否認論に歸着せざるを得ない點を觀取したグスターフ・アドルフ・ヴァアルフ(G. A. Walz)は其社會的法律的觀念に最も適合するとして國際法を對等者間の法乃至はエルボラチーフ間の法とし、國際法と國內法の關連の考察に於て多元論を採つて其論點を求め、全體としての國家を拘束する國際法は、國家が形式的意義に於ける國家的國際法として受容さるゝに於て國家機關及個

はまたリストの自由の欲求に對立するが、これも強く前者の自然法的思想から出てゐる。とはいへこの二人は共に自然法學說の代表者といひ難い。いづれにしても、リストはその實際の仕事から、同時代の國民的感情に、當時の人々が何が本來の任務であるかを意識し併せてこれらの國民的國家觀念の實現の要求に實際的形態を認め得る包括的表現を與へるにあるし、或はこれの日常生活に於て集められた諸々の經驗に效果ある深い理論的内容を附與するにあつた。ロツシヤアはリストの光輝ある事蹟に就ていふ、われら獨逸人は根本的な體系と教科書をかく豊富に有するが、なほかゝる實踐的書物に乏いのである。神よ、われらにより、多くかくの如き著作を有せしめたまへ。」(S. 93)

III

歴史派は經濟觀察に於ける歴史的方法の重要な主張し、經濟理論の觀照的・象徴的な精神的態度を認めた。これは右の如きレエマアの紹介にみられる如く主として先行者の精神的遺産を受入れたことに起因する。これらの主張には理想主義の國家論とロマンティックの歴史觀が巧みに結合されてゐる。然らば舊歴史派とその後繼者たる新歴史派との間にいかなる差異があるであらうか。著者は新歴史派に於ては先行者と密接なる關係が既に失はれ、十九世紀の前半識を支配した強い統一・包括的國家に對する一般的努力を缺くに至つた。(S. 10) 更にその歴史觀に就ては、かれらは舊歴史派が重視する認識を保存しない。反つて歴史的思想に反するやうな問題を研究したのである。これを新派の棟梁とみられるシュモラアにみると、かれの研究はヒルデブラントの經濟史的研究に基いてゐるが、實際それも新歴史派が舊派から自然的發展をなしたとみるを得ないほどの開きがある。舊派は正統派の

經濟理論をモディファイする許りでなく、完全にこれを打破しようとした。ヒルデブラントの經濟學の問題はその自然科学的根本思想を批評し、果して又如何なる程度に經濟生活のうち自然法則が支配するか、に答へんとするにあつた。(ペロー)ロツシヤアも強く正統派の理論を、殊にミススを利用し得る限りこれを使ひ、クニスになると、完全なる經濟學體系を造りあげるにあらず、僅かに一般的小プログラムを編むにすぎなかつた。その實行は新歴史派の課題として殘された。だが、新歴史派はこの點に興味を寄せず、社會政策的附屬物を以て正統派理論を變更せんとし、或は個々の經濟史的研究を深めたのである。それは結局「歴史的に觀察せられた國民經濟は經濟史的研究と等しい」といふ誤つた觀念に落着いたが、ロツシヤア及びその學徒の經濟史的勞作はこれと異なり、現在の經濟を理解するために營まれたものであつた。同じ經濟史の研究に就ても兩者の仕事にはこれだけの相違があるとものである。(S. 10)

著者のこの見解に従ふと、歴史派の經濟理論は正統派のそれを克服し得ないまま、その後繼者に相續され遂ひに理論の構成を斷念したことになる。この吟味は興味あるテーマであるが別の機會に譲ることとしよう。それは兎も角、本書は新興の獨逸經濟學が、それがナチス的であれ、また純學問的動機に基くものであらうと、新たに各種の理論體系を建設する場合、先行者の精神的遺産を如何に利用するかに就て、かつての舊歴史派の人々が踐んだ道を抽出し、ウエーグワイザアとしての勤めを果してゐる。殊に、曲解され易い獨逸ロマンティックの、そのうちでもミュラア或はリストに對して透徹せる理解を以てこれを描出してゐるのは敬服に値ひするところであらう。

—一九三七・一・二二—

人を拘束すると主張した。彼に於てはかゝる見解よりワイマール憲法第四條はナチス主義に従ひ解釋され、獨乙の特別な容認を受けた法規のみが獨乙國際法として獨乙を拘束するとした。(註三)

(註三) G. A. Walz, Das Verhältnis von Völkerrecht und staatliches Recht nach national-sozialistischem Rechtsauffassung, Zeitschrift für Völkerrecht, Bd. 18 (1934) S. 148—9.
Nationalsozialismus und Völkerrecht, Völkerrecht und Völkerbund, Bde, I (1934) S. 476—478

III

かような民族的法律理論の反映として現出したナチス的國際法理論はノルデイツシユ種族の最高を誇るに過ぎなく、矛盾と瞻着を包蔵する理論的構成である事言ふ迄もないが、歐洲に對流する國際法理論の奔流は一方に於て集合主義を標榜する普遍理想主義的理論構成であり、他方に於て分散主義を守るナチス的理論構成である。

或は前者の分野に意思說の武器を持たんで純粹法學の内部的改造を企圖し、ブリュエドロン國際法序說、一九三四年)學說其者を改善せんとする努力は現れてゐるが、國際法分野に散布された夫々の學徒の集團は各國の政治的利益をジャステイファイせるに吸々とし單に稀薄なる部分的復古主義的傾向(スコット)を純粹理論の分野に見出すに過ぎない。

學内報



夏期授業日程

大學各學部	七月九日	授業開始	九月十五日	試驗
大學豫科	六月廿六日	授業開始	九月十六日	試驗
專門部一部	七月十日	授業開始	九月十三日	試驗
專門部二部	七月十日	授業開始	九月十三日	試驗

夏期語學講習會

第十五回夏季語學講習會は、例年通り左記の如く開催する事に決定した。

會期 自七月十五日 至八月三日
場所 於天六學舎
(午後六時—八時)

科目及講師	英語	教授	村上 喜貞氏
	同	教授	水谷 揆一氏
	獨語	助教授	板倉 綱吉氏

人事移動

依願免專門部主事 專門部主事 武田藏之助
任專門部主事 講主事 河村宜介
免生徒主事 教授 河村宜介

任生徒主事 教授 和田豊二
囑任專門部講師(英語) 富田文雄
囑任豫科講師(英語) 二商講師 廣瀬捨三
依願免二商講師 二商講師 榎本金次郎
囑任二商講師(英語) 關甲講師 竹口秀三郎

慰問袋贈呈

本學關係校友にして、國家の爲遠く滿洲に出征し幾多の艱難と戦ひつゝある干城に對し、過般誠心をこめて慰問袋を發送し、遙かに其勞苦を憐つた。

全國私立大學聯合會

第十二回總會

全國私立大學聯合會第十二回總會は、六月十八日・十九日・二十日の三日間に亘り、兵庫縣武庫郡甲東村關西學院大學に於て舉行された、因みに本學よりの出席者は、喜多村理事、玉木理事、武田監事の三氏であつた。

かくほう抄

▽岩崎教授 法政大學社會學會主催のもとに、六月十九日(土)同大學社會學研究室に於て『社會情勢の構造及び矛盾』、日本社會學會主催のもとに、六月二十一日(月)東京帝國大學山上集會所にて『社會學の理論構成に於ける限界性』の題下に研究發表ありたり。尙、自七月十五日至同月廿五日の間、千里山講演部を引率し東北及び北海道地方に遊説す。
▽古川教授 自七月八日至同二十九日迄約二十日の豫

定にて、專門部一部辯論部員を引率し、朝鮮並に滿洲に遊説す。

▽玉木專務理事 三島郡吹田町一〇八〇ノ一(電吹田六六四)に轉居

▽故豊岡佐一郎講師追悼會 去る七月七日正午より千里山クラブハウスに於て追悼會を催し、教授講師二十五名參會しめやかに焼香の後、午餐を共にし、追憶談に時を移した。

▽山田松太郎教授 泉北郡濱寺町下一三八一に轉居

▽神宅賀壽惠講師 北區老松町一丁目三二(電北七二〇)に轉居

▽池田信之助氏(教務課) 布施市菱屋西四五に轉居

▽木寺 清一氏(圖書課) 泉北郡福泉町太平寺五五九に轉居

本學關係の左記諸氏はこのたび政務官に就任された。

- 勝田 永吉氏 (協議員) 内務政務次官
- 藤田 若水氏 (推) 司法參與官
- 金井 正夫氏 (警備師) 鐵道參與官

退任御挨拶

武田藏之助

不肖私は去る昭和四年天六新校舎竣成と同時に專門部主事に就任爾來今日まで八年間及ばずながら微力を致して參りました。本學が逐日學校當局不斷の御努力と教職員及び學生各位の一致御協力とによりまして校運は益々隆盛に尙ほ洋々たる前途に向つて躍進しつつ、あることは誠に御同慶に存ずる次第であります。

本學は昨年舉行せられました創立滿五拾周年式典を契機として將に劃期的發展の機運に際會し前途に囑望する所實に大なるものがあります従つて専門部主事の職責も更に一層重且つ大なることを痛感するのであります、然るに私は御承知の如く昨今は仕事の關係上非常に多忙な身體と相成りました爲め到底今後とも主事の重職を重ねて行くことは不可能にて延ひては健康上にも如何かと思ふ點も多々ありますので豫てより辭任の希望を有し先般仁保前學長を経て理事會へ辭意を申出で、置きましたところ此度昭和十一年度の幾多の殘務も滞りなく相済みましたので、ここに退職することと成つた次第で御座います。

顧みますれば専門部主事として在職八年間微力のいたすところ何等の貢獻もなし得ずここに退任致しますことは實に汗顔の至りにて誠に自責の念に堪へないものがあります。然しながら幸に學生諸士の理解ある御協力と御同情とによりまして在任中大過なく今回無事退任することを得ますことは私の最も欣幸とするところで衷心から感謝措く能はざる所であります。

本學は曩に學徳兼備の神戸博士を學長に迎へ而して神戸學長は専門部長を御兼任なされ且つ又今回適任たる河村教授が専門部主事に就任せらるることに相成りましたので専門部の爲めに心から慶祝すると共に専門部將來の隆昌發展を期待し且つ之を願望して止まない次第であります。

終りに私の在任中絶大なる御懇情を深く感謝すると共に深甚なる敬意を表し各位の御健康を祈り併せて専門部の前途を祝福して退任の御挨拶と致します。

昭和十二年六月

校 友

大 阪 支 部

恒例の支部總會は六月十三日(日)琵琶湖の景勝地近江舞子の風光を賞で其れより白鬘神社に詣で、京都市



大正九に於ける大阪支部一行の一部

立公會堂に於ける盛宴を名残りに支部彌榮の祝盃を重ねて解散した。

この日や、悲觀すべき天氣豫報を裏切つて上々の好天氣、二輛の貸切車に朗笑を乗せて三條大橋終點にて下車、一行は此處より颯々約三十臺の自動車を進ねて北白川越への近江路を辿る、若葉薫る山の小徑を川沿ひに上ること暫し、眺望展けたる峠にて小憩、みはるかす天下になだたる麗湖の鳥瞰圖を恣にし、七曲りとかなん新道の急阪を蹶地にスピードを擧げて琵琶湖ホテル前に到着す、廳で全員待期せる太湖汽船大正丸の人となり、初夏の波上を揺るがして鳴る汽笛を合圖に、迂るが如くコースを北に近江舞子へと心は急ぐ、間もなく、この日舊節句に當れりとて船中、京名物音羽軒の柏餅の挨拶ありて甘黨を嬉ばす事しきり、左に唐崎の松さては新裝なれる堅田の浮御堂を、右に近江富士をみて、ユーモアたつぶりの船長の解説に耳を傾け、青松白砂の舞子の濱に下り立つ。

磯邊の棧敷席に各自陣取つて餅料理に舌鼓を打ち後村人の曳く罫網見物に時刻の移るを忘る、歸船を促す笛聲に驚かされて、再び船の人となり、白鬘神社に參詣す、祭神は猿田彦命にして方位神たると共にお産長壽神として世の尊崇篤く、垂仁帝の御宇の創建になる境内の老松古杉を背景として、碧瑠璃の湖畔に映する様は自然と人工の交錯美と謂ひつべきか、四時近く白鬘社を辭し濱大津に直行、京津電車にて京都岡崎市立公會堂に至る、一同控室にて暫時休憩、それより會議に移り内藤副支部長の開會の辭、次いで喜多村支部長の挨拶並に決算報告ありて本日のプランに與かりし幹事諸氏の勞を謝し、最後に神戸新學長の就任挨拶あり

て、階上大廣間に於ける宴會場に臨む、酒間にはあまたの京美人侍り、舞、奇術、福引に興を副へて歡盡くるを知らず、閉宴解散したのは九時であつた。
當日出席者は左記百三十八名である。

今田光匡、飯田清義、糸島實太郎、飯田正一、一海景岩、石川登、岩島友一、島田繁太郎、羽賀一郎、八島治一、丹羽宇三郎、西村勝太郎、西本寛一、本田武藏、富田金三郎、棚木浩義、島羽源四郎、富田伸次郎、徳久清太郎、大崎萬太郎、長義道、大山彦一、神戸正雄、河村信一、海北和村、桂忠雄、河村有介、加藤金次郎、可野敬四郎、神尾敷民藏、吉村種藏、吉田音松、吉長正好、吉水留喜、吉崎義藏、垂水善太郎、武田貞之助、玉木三郎、武田毅之助、田中健三、高松林之助、田中可長、田所留三、竹西宗助、丹二良、竹腰吉治、谷口宗一、高沖次郎、永田良雄、内藤正剛、中川太郎、中塚正信、中村郷次郎、名田京一、中山幸市、中谷敏壽、中務平吉、中探竹藏、永井最一、中村岩見、中川庸太郎、中村良之助、中井三之助、中尾房太郎、中田秀太郎、中山宣造、村松岩吉、村尾静明、浦田豊、植松忠次郎、梅原貞治郎、植田完治、内田蕊、歌橋千秋、野崎勇二郎、野口政治郎、野村次夫、野中徹、黒田莊次郎、駿貫宣、殿下吟次郎、山田卯三郎、山本晋次郎、山根謙藏、山野展、矢口孝次郎、山本順麿、山口辰雄、安川安太郎、安井章吾、山崎敬義、増山忠次、松本標四郎、松本茂三郎、松本芳太郎、松崎義盛、前田常好、松本實造、松廣末松、松原健一、馬目重則、藤澤澤次郎、深川重義、古川武、藤本峰雄、袋井榮太郎、福田次彦、藤原光治、兒玉善吉、後藤田徳太郎、近藤友房、榎本金次郎、寺川末治郎、渥美元次郎、赤羽豊治郎、齋藤密三郎、澤邊金三郎、喜多村桂一郎、菊池金次郎、木村順次郎、岸本芳夫、三浦三郎、水谷探一、三枝樹正道、宮崎秀夫、道端常次郎、三島律夫、南清三木其太郎、新町徳之、清水兵衛、神保敏男、正田麻治、清水榮松、引野秀春、森下政一、團賢馬、鈴木水八郎

福岡支部

校友會福岡支部春季總會を、六月二十日福岡市外加布里の此の里亭に於て開く。此の日午前十一時會員今川橋附近に集合、一同バスにて四十分加布里に着、ほどこなく風光明媚にして眺望最も佳き此の里亭座敷に入る。糸島の連峰にて遠く圍まれたる加布里灣を一陣の下にし、其風光のまた絶佳なる、天は晴れ風なく遠く帆船の點々する様も及ばず、正午を過る頃支部長池田重吉氏は立つて諸般會務の報告をなし、馬場幹事の斡旋により佳肴運れ、純眞なる田舎娘のお酌にて大いに快飲す、酔の廻るに連れ高談爆笑、老壯階級の區別なく昔話に花を咲かして時の移るを知らず、一同歡を盡しやがて池田支部長の音頭にて、母校の萬歳を三唱し散會したるは、薄暮近き頃なりき。

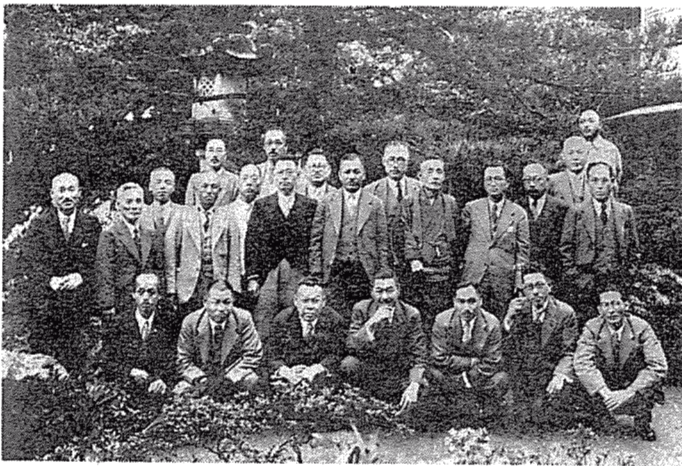
因に支部會員氏名左の如し。(順序不同)

池田重吉、古賀肇、馬場圓吉、星野俊一、阿部武夫、佐治謙讓、櫻井匡、大場猛男、高山朋一、井上以知爲、諏訪藤之助、不破美太郎、辻井安英、森田二郎、緒方三郎、阿武紀明、宮内吉美、渡邊信男、森下政治、吉本茂樹、濱崎彰松、吉岡直之、中井勝、本宮久吉、熊野猛、諸隈元治郎、柏田正文、内田武巳、安西恒男、丸山彌三、本庄七郎、宮崎久樹、安藤半藏、桑山四郎、木内正美、岸田雅雄、家永範夫、松井信一、藤木必

大四會春季例會

大正四年に母校を築立てる者を以て構成せる「大四會」は、既に二十ヶ年を越ゆる星霜を閲し、會員悉く鬢髮白きを加へつつあるも、母校愛は遞増的に昂揚し

例會への出席者は年一年、増加の一路を辿りつつあるさて本年春季例會は、會員三好萬次君が、一億五千萬圓の大會社たる「大軌」の専務取締役役に昇任し、又會員白井誠君が神尾君、吉永君の後を襲ふて大阪辯護士會副會長に當選就任したるを祝す可く、會場を神都宇治山田市及び二見海岸に定め、去る六月六日これを決行した。來會者二十五名、殆ど九割の出席率である。午前九時半、上六の大軌乗場に集合、參宮電車にて神都に着し、一同衣帯を改めて内宮及び外宮に參拜、午



大 四 會 春 季 總 會

後四時より二見ヶ浦の一流亭にて祝宴を開催、五十歳に近き各會員も福島學舎時代の舊を語りて興つくることなし。神尾幹事一同を代表して三好君及び白井君に祝辭を呈し、三好君の謝辭あり、午後七時名残を惜しみつゝ歸阪す、來會者氏名及び次年度幹事左の如し。

當日出席者順序不同 ○印幹事

- 磯村 遠 ○中深源治郎 西形 達次
- 法覺 稔 宇佐美正祐 山田 俊治
- 近藤 今藏 上田 清 ○芦 傳一
- 岩崎 卯一 野原 稔 稻垣 和雄
- 幅井喜三郎 花光 健助 藤原 隆一
- 神宅賀壽忠 天羽 強 吉村少一郎
- 笹尾 中唐 橋山 甚一 私市 力
- 吉長 正好 三好 萬次 ○塚本萬次郎
- 市川 信

神戸市役所關大俱樂部

恒例の春期總會は、去る六月三日午後六時元相生橋鳥善料理店に於て開催した。集る者原田、五十川兩特別會員を始め三十餘名、先づ大西幹事開會の辭に始まり、會長挨拶、今岡幹事の事務報告並に會計報告ありて後、武田藏之助先生より母校の近況並に發展狀況を拜聴し、専門部新主事河村宜介先生の御紹介あり、續いて河村先生の御挨拶の後、會長より本年度幹事の指名、自己紹介等型の如く進行し、武田先生を特別會員に滿場一致推薦、宴に移るや酒杯しきりに飛び交され、會員相互の交歡よろしく、極めてなごやかなる裡に會を閉じた。時に午後九時半。

因に當日の出席者及本年度幹事左の通り

來賓 武田藏之助、河村宜介、原田鹿太郎、五十川直市の諸
正會員 小西建左衛門(會長)、仁禮景賢(副會長)、藤野國三
今岡琢磨、松島興喜三、藤井政一、多賀恒一、大西克巳、田
中義亮、馬場達平、北村忠三、米谷正雄、山本寛二、平野浩
池田一郎、河原政次、多田隆久、室井富治、谷正司、赤尾保
北山秋雄、森且盛、田中謙治、藤原忠、松田秀夫、杉原亮

本年度幹事

本年度幹事
(本廳今岡琢磨、藤井政一、山本鎮郎、米谷正雄、灘田出口清一、(兼合區)河原政次、(神戸區)安岡信正、(淡東區)壺井富治、(淡區)谷正司、(兵庫區)北山秋雄、(林田區)藤原忠、(須磨區)織田猛一)

尙文會

第五回總會は去る六月十九日、喜久屋に於て開催、七時開會、創立五週年に關する議事に入り、終つてすき焼をつゝきながら歡談、林野君の旅行談に一同抱腹轉倒し、佐々木伊平君の神經衰弱論、文壇批判に與原君の怪氣焰、會員各自の忌憚なき意見の交換あり、初夏の灯の下、昔にかへつて話盡さず、次期幹事に豊谷豊、小山三平、森直行三君を推薦その快諾を得る十一時過和氣簾々裡に閉會す。

當日の出席者 中川多喜藏、與原正男、林野彰、佐々木卯平
小山三平、小山修三、豊谷豊、荒木陸郎

動靜

安藝 茂富君(明三一 法) 岡山地方裁判所長たりし同
君は停年に達せし爲檢事に任じ退職した、明治三十二年司法官試補に任じてより爾來司法官生活三

十有餘年、大正三年旭川地方裁判所長となり、名古屋控訴院部長、浦和、宇都宮地方裁判所長歴任今日に至つた

田中 可長君(明四四專經) 大阪市水道部料金課計算係長より住吉區役所第二出張所長に轉任

竹崎 米吉君(天二 專法) 佐賀縣總務部長退職

山本晋次郎君(天三 專法) 大阪市水道部料金課長より全業務課長に轉任

三好 萬次君(天四 專法) 大軌、參急常務取締役たりし同君はこの度大軌專務取締役となつた

上野 義明君(天四 專法) 住友銀行船場支店

小野村胤敏君(天六 專法) 日本大學專門學校長、辯護士たる氏は「自力救済の研究」と題すの刑法論文を東京日本大學に提出中の處、七月六日法學博士の學位を授與せられた、氏は本學卒業後辯護士を開業しつゝ、日大山岡研究室に學び、大正七年より三年間ベルリン、ミュンヘン兩大學で研究、歸朝後日大專門部教授より大阪專門學校長になつた。

高田 密藏君(天二專法) 大阪市住吉區第一出張所長より此花區役所庶務課長に轉任

藤田 芳顯君(天二專法) 辯護士、事務所南區末吉橋通一ノ一〇、大紙ビル別館一二號室

小谷 勇雄君(天二專法) 辯護士、事務所北區紅梅町八九

淺野清一郎君(昭三 專法) 辯護士、事務所南區坂町亮

早川 靜馬君(昭四 專法) 中央農具公司(滿洲國新京

池田彌一郎君(昭六 大法) 堺市役所水道部

依田 六郎君(昭六 專法) 光州地方法院判事、住所朝

鮮全羅南道光州府鶴岡町二八

福岡 彰郎君(昭九大法) 辯護士、事務所東區博勞町

二ノ六八、小野村胤敏方

小池 一州君(昭七專法) 東京火災保險會社(東京市

入江 雄次君(昭七專商) ミヨシ化學興業會社大阪營

業所、住所三島郡春日村下穗積四七八

伊丹 永好君(昭八大法) 大原造船所(西成區津守町

八六七)

藤倉 利一君(昭八專二法) 辯護士、事務所東區橫堀二

ノ一七、淺井稔方

佐藤雄太郎君(昭八專二法) 辯護士、事務所住吉區播磨

町東一ノ三五

幡新 彦市君(昭八專二法) 新瀧鐵道局工務部、住所新

瀧市西大畑町五一九七

横谷絢一君(昭九專一經) 京城地方專賣局清州出張所

り金城出張所に、住所江原道金化即金城面

多田 米藏君(昭九專一商) 東京火災保險會社大阪支店

住所南區瓦屋町一番丁六

酒井 俊雄君(昭九專一商) 寺田紡績工廠、住所岸和田

市野田町五一三

(舊姓馬越)

池田 忠徳君(昭九專二法) 野村生命保險會社、住所住

吉區田邊東之町七丁目二六

長富 政夫君(昭九專二法) 小川特許事務所(西區川口

町三六)住所西淀川區野里

森本 正宣君(昭一〇專二法) 辯護士

青木 治君(昭一〇專二法) 辯護士、事務所南區南綿

屋町五、能勢喜八郎方

村田 溶君(昭一二專二法) 新京秋山部隊山田隊

山口 將夫君(昭一二專二法) 藤澤友吉商店(東區道修

町二)

牧 信清君(昭一二專一經) 朝鮮運送會社本社より仁

川支店輸入係(仁川稅關前)

岡田 正治君(昭一二專二法) 臺灣總督府交通局鐵道部

庶務課、住所臺北市築地町二ノ一、平良宏方

移 動

上島益三郎君(推) 神戸市灘區山田町一丁目一

九(電御影四六二八)

志野覺治郎君(昭四專商) 西宮市森具松ノ下四〇三

古市文太郎君(天五專法) 北區木幡町五四

(舊姓本田) 笹田 英男君(天八專法) 東區谷町四丁目一二

新留 嘉吉君(天九專法) 東京市品川區西大崎二丁目

二二五

富家逸郎太君(天九專法) 門司市長谷町一ノ一四五五

瀨尾 永治君(天一五專經) 神戸市灘區篠原北町三丁目

遠藤正一郎君(天一五專經) 東京市蒲田區運沼町二六六

伊場 信一君(昭三專商) 岐阜市花澤町三丁目二二

(舊姓安藤) 北川 義夫君(昭四專法) 神戸市兵庫區中道通七丁目

七二

渡邊 正人君(昭四專商) 京都市右京區桂巽町一一ノ

吉田治良吉君(昭五專法) 廣島市東千田町四四三ノ一

二、川崎方

奥平 彦次君(昭七專法) 兵庫縣武庫郡精道村打出北

酒井 善雄君(昭八大法) 兵庫縣武庫郡山本村森三六

田中 義一君(昭八專一法) 東區清堀町二七

赤井 定雄君(昭八專一法) 東京市江戸川區小岩町三丁

黒橋 敏行君(昭八專一商) 旭區南島町六六四

石原小四郎君(昭八專二商) 東成區片江町四九一ノ一

小山 三平君(昭八專團) 西淀川區大和田町一〇〇〇

酒井 勳君(昭九專一法) 旭區生江町六八八、鈴木方

末吉 忠孝君(昭九專一法) 此花區春日日出町三四二、熊

田方

松本 政明君(昭九專一法) 住吉區北島中一丁目二〇

松本 包文君(昭九專一法) 東淀川區十三東之町三丁目

橋本 正雄君(昭九專二法) 五六、中田太作方

森田高太郎君(昭一〇大法) 東淀川區國次町三六九、今

市美方

福岡市吉塚町一ノ一、奈良

カメ方

(舊姓高見) 椋本 實君(昭一〇大法) 住吉區北田邊町六四〇

小笠原 衛君(昭一〇專二商) 港區五條通一丁目一〇

逝 去

北川格彌太君(昭四大法) 昭和十二年六月六日

北折 由兼君(昭五大法) 昭和九年三月三十一日

桂原 勝巳君(昭八專二法) 昭和十二年六月十一日

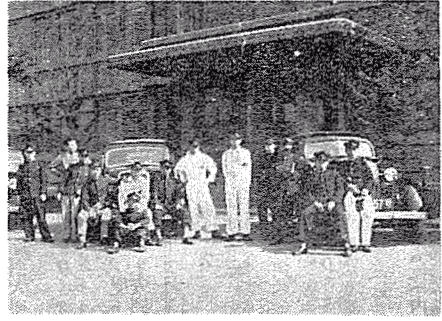
改 姓 名

(舊) 安藤 義夫

(昭四專法) 北川 義夫

(昭一〇大法) 立入伴治郎

(新) 村山伴治郎



關大スポーツ

大阪學生對校大會

六月十九日、於大阪市立運動場

トラク優勝

- 百 米 ②岩尾 ③竹内
- 二百米 ①谷口 22秒5 ③鈴木
- 四百米 ③古川
- 八百米 ②渡橋
- 千五百米 ①渡橋 4分23秒4
- 高障礙 ①大室 16秒1
- 中障礙 ①福田 57秒9
- 一萬米 ①川田 36分16秒4 ②赤井
- 四百米繼走 ①關大 45秒8

(岩尾、川手、小椋、谷口)

千六百米繼走 ②關大

フィールド優勝

六月十三日、奈良、京都、方面にドライブ決行す、當日は絶好のドライブ日和に恵まれ、道路状態も豫想外によく終始エンヂンも好調子に作動、事故一つ無しに終了した。参加者は粉川主將以下九名一般より四名、合計十三名。

使用車 三十六年型シボレー一臺
三十五年型フォード二臺
費消ガソリン 二十八ガロン
コース 本學—法隆寺—奈良—木津—宇治—石山—大津—京都—歸學
全走行軒數 二百二軒

陸上競技部

臺灣遠征

臺灣體育協會よりの招聘に依

り七月初旬より約二週間、左記スケヂニールにて全臺灣軍と戦ふ。

七月三日、神戸出帆(商船蓬萊丸)

全 六日、基隆入港

全 十日、十一日

對全臺灣對抗競技會

於臺北市富田町臺北帝大競技場

全十三日、基隆出帆(商船高砂丸)

全十六日、神戸着解散

相撲部

關西專門大學選抜對校戦

六月七日、於藤井寺相撲場

第一回戦

關西大學 7—0 鳥取高農

第二回戦

關西大學 4—3 名古屋高商

第三回戦

關西大學 4—3 大阪商大

第四回戦

關西大學 7—0 日大専門

第五回戦

關西大學 4—3 同志社高商

第六回戦

關西學院 7—0 關西大學

第七回戦

同志社高商 4—3 關西大學

二位勝率校(七戦五勝) 關大、同大

二位決勝

同志社大學 4—1 關西大學

個人戦本學關係入賞者

(一回戦) 中屋、大松

(二回戦) 中屋、大松

(三回戦) 中屋

(準決勝) 木村(關學) 中屋(關大)

(三等決勝) 出口(同志) 中屋(關大)

ホツケイ部

對京都帝國大學

六月二十日、於神戸商大

關西大學 9—1 京都帝大

拳闘部

全關西アマ選手權大會

六月二十日、於神戸海員會館リンク

フライ級

濱口(關大)〇 判定 藤原(大日學)

バンナム級

稲田(關大)〇 打倒 牧野(關學)

フェザー級

山田(關大)〇 打倒 長谷川(關學)

籠球部

對慶應大學

①六月五日、於甲子園コート

關大 60—18 慶大

②六月六日、於同所

慶大 49—29 關大

20—16 7

32 關大

③六月七日、於同所

關大 42 (19 | 8) 23 | 20 28 慶大

六月八日、於甲子園

大阪慶應 46 | 28 關大新人

野 球 部

關西六大學リーグ 對立命館大學

①六月五日、於西京極球場

立命館大學 8 | 1 關西大學

立 32000001200 || 10000000000 || 1

バツテリイ (立命大) 岡山 | 安岡 (關大) 中河 | 岡本 | 宮川

②六月九日、於同所

立命館大學 4A | 3 關西大學

關 0020100000 || 3000300001A || 4

バツテリイ (關大) 岡本 | 肥下 | 宮川 (立命大) 岡山 | 安岡

對慶應大學

六月二十日、甲子園球場

慶大 7A | 5 關大

關 100000500000 || 10005000100A || 7

バツテリイ

(關大) 岡本 | 肥下 | 宗内 | 宮川 (慶大) 高塚 | 中田 | 松森

劍 道 部

全日本學生大會 於文部省國民體育館

六月五日、第一回戰

○關大專門 (大將戰) 桐生高工

○關西大學 (大將戰) 東商大學

第二回戰

○關大豫科 (大將戰) 中央大學

○東京帝大 (不戰一) 關大專門

○關西大學 (不戰二) 日本體專

六月六日、第三回戰

○關西大學 (大將戰) 日本商專

○日本大學 (大將戰) 關大豫科

第四回戰

○關學高商 (不戰二) 關西大學

個人入賞者 増田 清 (關大)

水 上 競 技 部

關西學生水球大會

六月六日、於京都三中プール

准 決 勝

關學大 9 (5 | 0) 0 關西大學

大關學生大會

六月二十日、於寶塚プール

第一部優勝

二百米リレー ①關大チーム 1分54秒

(上野、内山、吉田、服部) 三百米メドレー ①關大 3分46秒6

(山田、伊崎、内山) 四百米 ①上野 5分22秒1

①中西 1分16秒7

百米背泳 ①服部 1分3秒

①上野 11分12秒

八百米 ①上野 11分12秒

八百米リレー ①關大 9分59秒5

(柴田、吉田、上野、服部) ①關大 ②大阪商大 ③昭和商大 ④浪速高校

⑤大阪外語 對法政大學定期戰

六月二十七日、於寶塚プール

關西大學 101 | 51 法政大學

關大 5 (14 | 20) 2 法政

水球競技

庭 球 部

關西學生對抗大會

六月一日

京都帝大 6 | 3 關西大學

倉光 (關大) 6 | 1 7 | 5 菅 (京大)

奧村 (關大) 6 | 1 7 | 5 湯川 (京大)

不破 (京大) 6 | 2 6 | 2 廣瀬 (關大)

増田 (京大) 6 | 1 7 | 5 中村 (關大)

別宮 (京大) 6 | 1 7 | 5 合井 (關大)

千葉 (關大) 6 | 1 6 | 2 湯川 (京大)

倉光 (關大) 6 | 1 6 | 1 廣瀬 (關大)

不破 (京大) 6 | 1 7 | 9 菅 (京大)

奧村 (關大) 6 | 1 7 | 9 菅 (京大)

増田 京大 6 | 0 6 | 4 川勝 (關大)

松山 京大 7 | 5 2 | 6 中村 (關大)

別宮 京大 6 | 3 4 | 6 今井 (關大)

弓 道 部

對天理外語

六月六日、於大阪帝大

天理外語 81 | 74 關西大學

米 式 蹴 球 部

對慶應大學

六月六日、於甲子園南運動場

慶大 29 (9 | 0) 6 | 6 關大

射 擊 部

三天學リーグ

六月十四日、於京都深草射場

1、關西大學 44點

2、同志社大學 39點

3、立命館大學 37點

對大阪外語

六月十六日、於大阪城南射場

關西大學 22 | 22 大阪外語

六月十九日、於同所

大阪外語 25 | 22 關大專門部

對大阪商大

六月二十六日、於同所

關大專門部 20 | 22 大阪商大

馬術部

第十二回オリンピック馬術學生選手権選會、兼第九回全日本學生馬術選手權大會關西豫選(七名)及三都對抗學生馬術大會の、關西學生乘馬聯盟代表選手(十名)の詮衡會は、六月十三日堺金岡騎兵第四聯隊營庭に於て、吉井大尉、秋根中尉審査の下に舉行す、參加十四校、四十二名。

- 第一位 宮本恒夫(關大) 一〇點
 - 第二位 中里利夫(關大) 一〇點
 - 第九位 廣谷泰助(關大) 一〇點
 - 第十三位 鹽谷進(關大)
- 尙本年度關西聯盟選手首將に宮本君就任
全日本馬術大會(専門部二部)
七月四日、廣島西練兵場に於て開催されるに付左選手六名派遣
城下首將、岡副將、大利、徳田、林、先川

柔道部(専門部二部)

大阪學生聯盟戰

- 六月十三日、於浪速高校道場
- 第一回戰
- 關大專二(不戰六) 昭和高商
- 第二回戰
- 關大專二(不戰二) 大阪高醫
- 第三回戰
- 關大專二(不戰一) 關大豫科

卓球部

大阪學生選手權大會

六月二十日、於關大天六學舎
シングルス
第四位 小川喜志雄
ダブルス
第二位 谷口義正、小川喜志雄
對大阪商大戰(専門部二部)
六月二十七日、於大阪商大
關大專二 8-1 大阪商大
尙専門部二部卓球部は七月三日大阪發鳥取、米子、松江方面に遠征す

航空部

民間航空事業の發達は單に國防にのみ止まらず、汎く交通、通商、産業の各部門に亘り寄與する處鮮とせなむ。
本學航空部に於ける學業の餘暇眞劍に技術を練磨するの微衷を諒とせられ、切に校友諸氏の絶大なる御支援を賜はらんことを乞ふ。

ラグビー部

- 五月三十日、於大阪商大
關大二軍 18(0-1-3) 9 大商大二軍
- 六月五日、於昭和高商
關大二軍 48(3612-1-3) 3 昭和高商



皇陵崇敬會(千里山)

第四次第十三回例會(六月二十日)

南河内古市方面に催す、大鐵阿部野橋驛發が午前八時半、古市驛にて下車、先づ第二十七代安閑天皇古市高屋丘陵に參拜次いで安閑天皇皇后春日山田皇女古市高屋陵に參拜す、それより西し日本武尊河内白鳥陵次いで西北に在す第二十二代清寧天皇河内阪門原陵を巡拜し來目皇子墓に至る、更に道を北に採り第二十四代仁賢天皇地生坂本陵に參る、野中寺を左手に見つ、行くこと僅か第十四代仲哀天皇惠我長野西陵を拜す、それより藤井寺へ向ふ、境内の茶店にて晝食を終へ山門を背景に一同記念撮影を行ふ、此處を辭し第十五代應神天皇惠我藻伏岡陵に參拜北なる應神天皇皇后仲姬命仲津山陵に至る次いで第十九代允恭天皇惠我長野北陵を拜し奈良街道の小高き岡に石棺を觀て後道明寺に至る、更に土師神社に詣て大鐵道明寺驛より電車にて高鷲驛に下車、最後に第二十一代雄略天皇丹比高鷲原陵に參拜す、これにて本日の余ホースを終え三度電車の人となり阿倍野橋に歸着した(參加者)河村(信)教授、北川、尾崎、佐々木、澤田、牧野、金重、安藤(安藤記)

參陵會

第二次十七回例會 六月二十日

新入會員歡迎會—同夜心齋橋森永にて新入會員歡迎會を行ふ會長河村教授の歡迎の辭があつて自己紹介を行ひ記念撮影を爲し後大いに當會發展上の意見を交換入時半近く散會した。(出席者)河村(信)教授、竹腰生徒監、外十一名
畝傍山方面に舉行す、此の日大軌上六驛に會する者廿三名多數の新入會員を得て一同元氣旺盛、午前八時半特急神風に乘車、高田驛で乗換久米寺驛下車直ちに徒歩約九町なる第廿八代宣化天皇同皇后橘仲姬皇女、身狹桃花鳥坂上陵に參拜し更に引かへして久米仙人で有名な古刹久米寺に參詣し記念撮影後石川に向ふ。第八代孝元天皇劍池島上陵に參拜し滲み出る汗を木蔭に憩ふ暇もなく直ちに畝傍山西南第三代安寧天皇御陵井上陵第四代懿德天皇畝傍山南織沙淺上陵に參拜、次に樞原神宮を拜し再び記念撮影後驛前休憩所にて漸く渴を愉やし空腹を満した次第で第一代神武天皇畝傍山東北陵第二二代竊天皇桃花鳥田丘陵に參拜し午後一時神武御陵前驛にて和氣霏々の中に解散す。(參加者)可野先生、阪本、島田、淺野、尾崎、平野、越智、岡本(耕)後藤、面地、古谷、田坂、山根、澤田、吉田、濱崎、岡本(正)寺島、有長、武田、北野、松井、熊谷の諸君

皇道宣揚會

非常時皇國の現状に處すべき、日本臣民たるの覺悟を促さんと、左記の通り一大講演會を開催す。

七月二日、於信濃橋、岡島會館

講師と演題

一、日露戦争と近代戦に就て

砲兵大佐 石川喜代見

二、大陸政策と南進論

關大教授 大山彦一

基督教青年會

大阪學生YMCA聯盟總會

五月二日大阪商科大學各部會議に於て開かれ本學より木下、大笹(學部)本田、小倉(理科)派遣各校交歡協議し後校内見學及晚餐に與り商大の好意を深謝して解散

YMCA關西地方部會總會

滋賀縣近江兄弟社に於て五月八、九日の兩日開催、本學より木下、大笹を送る。

西日本より集ふ者二十二校に及び全國YMCA主事及加盟青年會教授並に近江兄弟社、ヴォーリス先生、大丸專務、里見純吉氏等百三十名參會盛會有意義なりき

基督教書籍寄贈

千里山圖書館に推獎書籍を學内傳道及研究の一端にと十六冊寄贈致しました。(新約書一般緒論ほか、前號學報參照下さい)

YMCA同盟

日本基督教青年同盟の依頼により本學青年會會勢報告を送付す(世界YMCA同盟、ゼネバ宛のもの)猶明年我國に於て世界基督教學生聯盟大會WSCFが開催される筈。

關西學生YMCAキヤムプ

昨年より實況放送にて全國に紹介された淡路松帆の浦に於て開催さるゝことになり、準備委員校として本校は商大、大齒專と共に活躍して居る。本學々生ならば申込により参加を歓迎する、本學青年會事務所(四月號學報參照)宛照會せられ度い。

東亞研究會

綠濃き六月我等が研究會の決行せし行事を次に略述する。

(一) 臨事總會開催 六月十一日會員一同は地下室學生集會所にて臨事總會を開催し、次の事項を決議す。

- ① パツヂ改正の件
- ② 討論會開催の件
- ③ ハイキング舉行の件
- (二) ハイキング決行

千里山↓勝尾寺↓箕面のコースを選んで六月二十日九時半新大阪に集合、全行程十六キロ、樂しき一日を身も心も俗

塵から洗ひ清めて六時歸飯、夕食を共にして解散せり。

尙討論會は六月二十七日日行ふ(高橋記)

商業研究會

六月二十七日、箕面方面へピクニックを舉行。

研究發表討論會開催

七月三日(土)午後三時より學生集會所に於て、森川教授指導の下に、左記課題に付、討論研究發表す。

課題

- 一、銀行の信用創造論
- 二、金本位の將來
- 三、生産力擴充と公債消化

經三クラス會

(專門部)

六月十六日夜、天六北進にて開催す本學ユートピア化のバイロット經三學生の會者四十余名、定刻半澤委員長學生々活の意義を強調して開會の辭に代へ、次で自己紹介に移り、中川教授の有益なるお話を拜聽、完全に師弟愛のあやなす雰囲気陶酔し、互に其の虚心坦懐なる心境を披瀝し、左記事項決議の上意義あるクラス總會の幕を閉じた。

決議事項

- (一) 學友會にクラス會補助金交付申請の件
- (二) 卒業記念アルバム作製具體案承認の件

辯論部

(二) 六月二十七日箕面にハイキングの件

本年夏季地方遊説は左記の通り

千里山講演部 自七月十五日至廿五日

東北及び北海道地方

專門部一部辯論部 自七月八日至全月下旬

朝鮮及び滿洲地方

專門部二部辯論部

北陸地方

共濟部主催

就職座談會

(專門部)

專門部二部共濟部主催就職座談會は去る六月十五日(火)午後六時より日本橋ラジール會館に開催された。當日は大阪市職業紹介事業關係より音頭・田中(中央)村川(天王寺)、今井・武賀(天六)の諸氏、新聞社側より坂田(大毎)土橋(夕刊大阪)學校側より河村專門部主事、古川・和田可野各生徒主事、學生側は學友會の幹部出席した。先づ紹介所側より現在學生、卒業生の就職斡旋狀況、求職求人者兩面の傾向、其の他求職者の心得事項等を縷々説明せられ、學友會幹事長、各部長、委員諸氏より夫れ々の所屬部員並に二部學生の特殊性を強調し、熱心なる應答ありて十時二十分閉會した。



朝 冷 遷

第十一回

六 月 例 會

六月二十二日(火)午後六時半より天六
學會本部會議室に於て開催す、採録句は
左の通り。

安井 龍章

緑蔭のテラス大理石なめらかに
窓に入る蜻蛉壁誦にひそと觸れぬ

神屋敷蒼生

岩清水掬ぶ晝餉に風來り
保津川を下る

樞の音高し山峽躑躅は咲けり

松元 鈴羊

五月雨に濡れて釣人晝に似たり

梅田 曉星

新緑の街樹に日傘觸れてゆけり

永幡彌壽夫

コーヒの冷たき愁りつ夜のみとり

谷口 涼一

蒼空に鶯舞ひ夏の山まろく
夏的光峰若き生命の響あり

宮本かなめ
プロペラは大いなる夏の波を巻く

中塚 素木

花さくる朝の雀は土に下りぬ

藤井 千甲

夜をぬくく白き芍薬に水を濯ぐ

嶋頭 富王

水精生れビーチバラソル丘にさす

厨妻いそしみ梅雨の灯がつかず

冷房やパツツ冷たき紅を散らす

山口 羊丘

螢墮つひとの袂の華かなる

旅果つる夕べ河鹿の鳴き澄める

兒は癒えず蟬を羨しむ日となりぬ

遠き灯と螢と湖は捨れてゐる

飯田 正一

梅雨止まずぎぼしの花を傾けて

無花果の廣葉霖雨の降りやまず

高みより柳の青葉落ちこぼれ

投 稿 句

五月晴子等懸命に雑魚すくふ
一少年泳ぎ渡れり池青葉

山陰にて 杉木 苔露

遊船や河日に近く幾まわり

日和山

巖をかむ水とも見えす夏の海

文 藝 祭

(専門部二部)

例年待望の文藝祭は、若葉薫る六月六
日午後五時半より、其の第七回を大阪朝
日會館公演場に開催、立錫の餘地なき迄
に埋め盡した數千の觀衆を前に、文藝部
員一同日頃の猛練習を遺憾なく發揮し、
其の熱技を披露して大好評裡に絢爛たる
幕を閉じた。

プ ロ グ ラ ム

一、開會之辭 委員長 日俣 正三

二、合 唱 コーラス・バンド

關西大學學歌、學生歌

三、ハーモニカ合奏 ハーモニカ
ソサエティ

指揮 佐藤 宗年

A 行進曲「コエド」

B 序曲「我若し王者なりせば」

C 未完成交響樂第一樂章「アレグロ」

四、マイナー・ハーモニカ獨奏

佐藤 宗年

A 荒城の月

B コサツクダンス

C 太湖を行く

D 雨の城ヶ島に寄す

五、接 拶 神戸 學長

六、秋の煙り(一幕五場) 演劇研究會

七、接 拶 文藝部長 鯉江 城夫

八、ジャズ演奏 タンゴ・アンサンブル

A ラ・チカ・アンダルシア

B ジブシーの月

C グッドナイト・スキートハート

D 颯 風

E 君微笑めば

九、海の勇者(一幕)

演劇研究會
眞子 西洲

十、吟 詩

十一、ジャズ演奏 タンゴ・アンサンブル

A アイランドの村娘

B タベ仄かに

C ラ・クムバルシータ

D コロラドの月

E 青い背廣で

十二、閉會之辭 副部長 稻田 悦治

大正十一年七月十五日創刊
昭和十二年七月十日印刷
昭和十二年七月十五日發行

不許複製
編輯人 神屋敷 民藏
發行所 關西大學學報局
大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地
大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地
大阪市東淀川區長柄中道二丁目十二番地

關西大學
天六學舎 大阪市東淀川區長柄中道
本部電話 五〇三九
本部電話 五〇三九
本部電話 五〇三九
本部電話 五〇三九

千里山學舎 大阪市内千里山
本部電話 四一三三
本部電話 四一三三
本部電話 四一三三
本部電話 四一三三

法學博士 佐々 穆 著

新刊

全訂 國際私法撮要

菊判上製 三〇〇頁
定價 貳圓五拾錢
送料 拾四錢

著者は人も知る斯法の權威である。今、本書は此の著者が、舊著「國際私法撮要」の完璧を期して、久しく拮据の末成される増補全訂版であつて、特に著者の意を用ゐられたるは、單に各規定の説述に止らず、更に進んで各規定の立法理由即ち法の精神乃至は法の目的を闡明することに努め、従つて國際私法上證據法發見の標準を國際私法の有する法目的に置きたる點である。所謂目的論的説述が本書を一貫して看取せらるゝ一大特色である。亦、新手法及び新小切手法の定むる牴觸規定の解説をもつて新しき意味の國際私法として爲したる點も、本書の全訂版たる理由の一に數へられる。而も本書の主たる目的が、國際私法講義用の教科書たることに存するを以て、國際私法の要領を容易に把握せしめる爲、全體の説述が簡明的確に運ばれてゐることはいふまでもない。學生は固より、斯法研究家に好適の書である

大阪商科大学 教授 陶山誠太郎 著

國際會計會議

菊判上製 二五五頁
定價 貳圓貳拾錢
送料 拾四錢

本書は一九二九年ニューヨーク開催の第三回國際會計會議に参加した著者の報告書再版に若干の關係論文を併録したものである。即ち第三回會議に對してはその模様を詳細に傳へるの外、第一、第二及び第四會議に關しても夫々概括的説明を加へ、更に一九三〇年ゼネバに開催の國際豫算統制會議への參加報告書をも收録、獨占制下の國際的會計諸問題を提示してゐる。この種文献の極めて乏しき折柄、我が學界を裨益するところ尠くないであらう。

東京 駿河臺 中央大學 前
電話 八二二二番
東京 神田 一八二二番
電話 八二二二番

大 同 書 院

大阪 北區 梅田 一六七番
電話 八二二二番
大阪 北區 新田 二七五番
電話 八二二二番

生徒補缺募集

募集人員 第一本科第一學年 若干名
出願期限 九月十日(金)迄
考查日 九月十一日(土)
入學資格 尋常小學卒業

總長

貴族院議員

加藤政之助

校長

關西大學講師

柳延胤

甲種認定 大阪初芝商業學校

本校の特色

- 一、清澄明朗雄大な環境、廣袤一萬餘坪の理想的運動場
- 一、滿洲・支那・南洋・南米へ雄飛の準備教育
- 一、飛躍日本建設の中堅國士養成
- 一、道義的精神訓練、實踐的商業教育
- 一、東京大東文化學院本科無試験連絡

大阪府南河内郡日置莊村初芝
(南海電車高野線初芝下車)

第五十回

關西大學 夏期語學講習會

科目 英語 獨語

(英語科は中等學校卒業程度)
(獨語科は初等)

會期 七月十五日—八月三日 午後六時より八時まで

會費 參圓五拾錢(入會金壹圓)

會場 關西大學天六學舍

講 英語科 教授 村上喜貞氏

同 教授 水谷揆一氏

師 獨語科 助教授 板倉綱音氏

(特典)

英語科修了者にして特に
行ふ試験に合格せる者は
明年四月専門部入學試験
の英語試験を免除す

詳細は直接又は返信料を添へ本會へ照會のこと

大阪東淀川區長柄中

關西大學

電堀川一〇三九・一〇八五・一〇八七番